

第6期 新体制決まる！

法人役員の改選が行われました

自：2014.9.26
至：2016.9.25

ふくろう新聞

<発行>
特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
広報委員
洲本市中川原町中川原28番地1
TEL:0799-25-8550
FAX:0799-25-8551
ホームページ
<http://hyoufuku.main.jp/>
メール
info@hyoufuku.main.jp

淡路島内3市の9月議会において、「手話言語法(仮称)制定を求める意見書の提出を求める請願書」が採択されました。国において手話言語法が制定されるとともに、言語的排除を乗り越え意思の自由が拡大されてゆくよう、取り組んでまいります。

平成26年9月23日の理事会・評議員会で、法人役員が改選され、理事長が交替しました。

理事長就任の挨拶

『手話でふれ合うインクルーシブな
まちひとつしごと』

法人設立10周年の節づくりへ

理事長 大矢 暹



秋色深まりゆくこの頃です。皆さまいかがお過ごしでしょうか。淡路ふくろうの郷では10月26日のふれ愛祭り

の準備に大わらわです。大勢の皆さまの参加で、明日を切り開く時間・空間にしましょう。

さて、この度、第6期の法人役員選出にあたり理事長に選出されました。健康課題を抱えながらではありますが、自分を愛し自分を創造していききたいとの強い希望の内に、理事長の職務を重ねて参りたいと念じております。

ふくろうの郷にあって多くの病を抱えつつも、生きることを強く望み、学ぶ意欲旺盛にして、みんなが幸せに暮らせる世の中に尽くしたいと命を燃やしておられる入居者の皆さん方の

貴さをいっぱい吸収して参ります。初代理事長の故・池尻重義先生をはじめ、三根一乗先生、そして前任の白水祥文先生がこんこんと耕してこられました「福田(ふくだん)」です。インクルーシブな、誰もが排除されない相互の包み合いを、地域創生の「まち・人・しごと」とつないで、ここに法人創設10周年への節目の福業を推進しましょう。その福業とは、昨年法人も参加して実現されました「阪神淡路大震災から18年をむかえた兵庫県における聴覚障害者の実態と生活ニーズの調査報告書」の提言※の実現に全力を上げてゆくことです。いっそうのご支援ご指導を賜りますようお願いしてご挨拶いたします。

※提言の主旨：社会的孤立から社会的自立と自由・安心・希望のもてる暮らしを支援してゆく拠点・事務所・センターを建設しましょう。

一、「神戸市聴覚障害者総合福祉センター(仮称)」の早期設立

二、「障害保健福祉圏域」ごとの「地域聴覚障害者総合福祉センター(仮称)」の設置

三、「児童発達支援事業」「障害児放課後デイサービス事業」

四、「難聴者・盲ろう者の支援事業の飛躍的な充実を」
○調査報告書の提言について、詳しくは淡路ふくろうの郷へお問い合わせください。

みんなが手話で話す淡路島への出発の日!

今年も淡路ふくろうの郷の入居者が手話劇を披露します。「介護保険制度の後退は困ります」、「福祉年金を所得として負担増が予定されているのは困ります」との訴えを『水戸黄門』風に劇化する予定です。他にも模擬店でのBグルメ投票や文化展でのクイズ、入所者作品展など、楽しい企画が盛りだくさん。

また、中川原ふれあいセンター(元中川原中学校)でも、子ども企画やおのころ屋の販売、デイサービスの入所者の作品展などを行っています。お越しいただいた皆様に楽しんでいただけるよう、準備を進めておりますので、たくさんのご来場をお待ちしています。(まつり担当：野地・谷口)

第9回ふくろうふれ愛まつり

10月26日(日)

10月に入り、いよいよ第9回ふくろうふれ愛まつりの日が近づいてきました。9月に、淡路聴覚障害者協会が手話言語法(仮称)制定を求める意見書の提出を求める請願書を淡路市・洲本市・南あわじ市の各市議会に提出し、それぞれ採択されました。この機運に乗って手話を広め、このまつりのテーマ「みんなが手話で話す淡路島」へ向かう出発の日になります。

11月8〜9日
大阪堺にて

全聴福研で発表「ターミナルケア」

濱田由子さんからの学び

昭和6年3月生まれ
神戸市須磨区在住

高齢に伴う老人性難聴で、ふくろうの郷に入居されたときにはほとんど聞こえず、またお言葉を話されることもほとんどありませんでした。

娘の操様(以下操さん)からお元氣だった頃の濱田さんのお話を伺った際には、妻として、母として家庭を支えておられたことや、精肉店で事務の仕事がされていたこと、そのほかにも濱田さんの愛嬌のあるお人柄が溢れるエピソードをお話し頂きました。お話を通じて、お母さんへの敬愛の気持ちや関係が伝わってきました。

ふくろうの郷での生活

お顔を見て何度も挨拶をしたり、お声をかけたりするうちに素敵な笑顔を返して下さるようになりました。

色々な行事にも参加され、その際に撮られた濱田さんが微笑まれている写真を見た操さんは「また母の笑顔が見ることが出来る」と思っていたので驚きました。「と言われました。

ターミナルケアへ

そんな濱田さんですが、今年の4月頃から、体調の悪化がみられ、食事が難しくなってきました。病院で診てもらった結果、認知症の進行による老衰であること、このままでは食事も難しくなるため、その時に胃ろうやVHで延命治療を行うのかどう

かについて考えなければならなくなりました。

その際に操さんから、濱田さんが操さんに宛てられた自筆のお手紙を数通見せて頂きました。操さんより「母の気持ちや尊重したい」とのお話があり、またふくろうの郷の職員も、濱田さんのお気持ちに添いたいという強い思いを持ち、ふくろうの郷で穏やかに最期を迎えて頂くために、6月14日よりターミナルケアと位置づけました。ユニットで相談の場を設け、操さんが訪問された時にご希望があり体調が良ければ車いすに移って頂き、一緒に時間を過ごしてもらえようようにすることや、操さんから「食べられなくなるまで、母の好きだった甘い物を食べてもらいたい」と伺ったご希望について話し合いをしました。

誤嚥するリスクもありましたが、看護師や言語聴覚士の協力の下、飲み込み切れず口の中に残ってしまったものは吸引などの援助をすることで、本当に飲み込めなくなる時まで濱田さんのお好きだったものを食べて頂きました。

今回のターミナルケアを通して改めて感じたことは、ふくろうの郷がこれまでも重要と考えてきたその人の過ごされた暮らしと人生を学ぶことの大切さです。そのことを実感として気付かせてくれた濱田さん母娘に感謝し、今後の支援に活かしていきたいと思えます。

(生活支援係：原口)

9月16〜19日に仕事体験で実習された渋谷勇氣さんからお便りが届きました。

わずか4日間の仕事体験ではあったが、とても有意義な時間を過ごすことができた。それは入所者の方々、職員の方々温かく迎え入れてもらったおかげである。この4日間のことを振り返りたい。

初日はとても不安な状態だった。普段と違う環境、どうやってコミュニケーションを取ればいいのか。果たして自分に何が出来るのだろう、という思いだった。午前中、朝の会があり、そこで初めて、入所者の方々と触れ合う機会を得る。厚生労働省へ要望書を提出しに行つた際の写真・映像がスクリーンに映され、観光を楽しむ様子やしっかりと意思を伝えようとする様子を見ることができた。また、その光景を確と見つめる入所者の方々の姿に、並々ならぬ思いがあるのだと感じた。

朝の会終了後、スタッフの川満さんの勧めで「耳が聞こえない人とのコミュニケーション」について、インターネットで調べた。そこで分かったのは、「もちろん手話は大きな手段であるが、かといつて手話が必ず通じるとも限らない。意思疎通を取ろうとする姿勢自体が大切」だということである。そのとき、高校英語の授業で先生が口にしていた言葉が頭をよぎった。「何事も

guess しなさい」。guess とは「推測する、見当をつける」という意味。この「ふくろうの郷」にいる皆さんは、おそろくguess することにとっても長けているのではないだろうか。相手のことを慮り、理解しようとする。だからきっと、この空間がどこか優しい雰囲気にも包まれているのだろうと確信した。

(中略)

3日目の午後は手芸講座に参加した。皆さんが同じ布から、様々な生き物を生み出しているのがとても面白かった。私も一つ、作り上げることができ、「小さいトトロ」と「ムーミンのニョロニョロ」を足して2で割つたようなものが出来上がった。

(中略)

最初の不安はどこへやら、とても楽しく、ここでの「生活」を過ごすことができた。自分自身の就労に対する自信にもなったし、何よりも誰かとコミュニケーションすることの楽しさを改めて知ることができた。マナーを身につけよう、言葉や綺麗に使おう、ふくろうの郷で言うならば、手話を身につけよう。こういったことはもちろん大事ではあるが、その前に必要な心持ちとして、他者を尊重し、理解しようという意識を持つことが大切だと、身を改める所存である。短い期間でしたが、ありがたございました。

(実習生：渋谷勇氣)



近江へ梨狩に敬老旅行

〜 凧博物館も〜

9月28日、淡路聴力障害者協会主催

の第15回あわじ敬老の集い日帰りの旅行に、入居者6名と職員5名で参加しました。今年は滋賀県の近江方面への旅行です。竹山農園でのなし狩りでは採れたてのなしを頬張るように食べたり、永源寺で昼食を頂いた後に、世界凧博物館で100人以上の人で上げる凧の大きさに驚かされたりと、大変満足いく旅行でした。滋賀県と遠方のため、帰りのバスでは疲れた様子の入居者も居られました

が、大変楽しまれたようで喜びの声を多く聞くことができました。来年度も楽しい旅行企画を心待ちにしています。

(生活援助員：船越健太)



▲大凧を前に圧倒される皆さん

松栄寺さんへ お彼岸参り

9月20日、田んぼの畦道に彼岸花が咲く秋晴れの中、中川原の松栄寺に彼岸のお参りに行ってきました。松栄寺ご住職のご配慮で、ふくろうの郷で亡くなられた方の中で、ご家族や身寄りがないなどの様々な事情によりこのお寺にお骨が納められている方の慰霊碑があります。

慰霊碑のお掃除をし、お花を供え、暫しお茶を飲みながらの談笑。亡くなられた方々は久しぶりに見るそんな入居者や職員の様子に、ふくろうの郷での生活を思い出しく私たちを見守ってくださっていたのでしょうか。最後に一人一人お線香をあげ手を合わせました…合掌。

(生活援助主任：中西理恵)

入居者6名が 自分史作成中

淡路ふくろうの郷で生き暮らしを創っておられる方々が、ふくろうの郷に来られるまでに、

どのような人生を送られてきたのか。私達には計りきれないご苦労の中でたくましく生きてこられた歴史を語り継いでいくため、その方の存在を忘れないようにするため、そしてろう者との関わりを持つ方・世間の方々を知って頂くためにも、淡路ふくろうの郷では入居者の方がご自分の人生について語られた冊子『自分史』の作成を支援しています。現在、花房ご夫妻、黒崎氏、濱田氏、辛嶋氏、土居・中村ご姉弟に取り組んでいます。完成は来春

の予定です。現在販売中の「勝薬ご夫妻の自分史」「淡路ふくろうの郷5周年記念誌」とあわせて、是非ご購入ください。

(生活援助員：和田彩加)



▲既刊の2冊同様、入所者の豊かな人生を掲載予定です



▲故人を偲んで、合掌



10日、災害時を想定した炊き出し訓練を実施しました。みんなで作ったカレーは絶品でした。(防災委員会)

みんなが手話で話す淡路島

淡路聴覚障害者
センター
— 便り

9月14日、兵通研淡路地域班の学習会が淡路ふくろうの郷で行われました。淡聴協・手話サークルの会員や神戸からの通研会員など20名の参加者がありました。今、全国各地で手話言語法や手話言語条例制定に向けた様々な取り組みが行われています。“手話言語条例って何？”と聞かれて皆さんどのようなイメージされますか？条例によって「みんなが手話で話す淡路島」をめざす夢が出し合われました。

洲本市港2-26
洲本市健康福祉館3階

学校では国語などと同じように「手話」の科目があり、皆が手話を学ぶことができればいいのにな。

現在洲本市にある聴覚障害者センターを淡路市・南あわじ市にも設立したい。

中途失聴難聴者が気軽に集まれ、孤立しないように聞こえの講座や交流の事業を行ってほしい。

中川原に地域の方と一緒にふれあい農園作って農業をしたい。そして「道の駅」を作り野菜など販売したいな。

市民講座や講演会などにはいつも手話通訳が付いていて参加できるように。

医療機関、公共の場所には手話で会話できたり通訳できる職員がいる淡路島に。



「自ら抱える問題を話す」

手話奉仕員養成講座 講義を担当して



奉仕員養成講座では講師が講義も担当しています。今回は「医療」「ろう教育」「地域・家庭」「ろう運動」をテーマに講義をしています。担当した講師の上内氏は「私たちろう者は地域の人々と関わりを持ちながら生活しています。地域や職場で困っていることを話すことで情報保障の大切さ、ろう者が抱えている問題を受講生に理解してもらえたと思う。自分のことを整理しながら話す難しさを経験し勉強になった。これからも経験を積み重ねたい」との感想を述べています。

第4回社会生活教室「色、いろいろ」

～色彩心理学ってなんだろう？～ 9月21日やまて会館



幼少の頃から難聴で絵を描くのが好きで大学では心理学を専攻され、その後専門学校で2年間色彩心理学を学ばれ、現在色彩を中心にアート活動やセラピーとして活動されています。藤田奈保子氏を招き講演を行いました。色の持つ力やアートセラピーについてお話いただきました。

好きな色・嫌いな色には自分の深層心理が深く関わっている。色の力を借りて気分を高揚させたり、見られたい自分を演出することができますと講師の藤田氏。

服を選ぶ時の色はその時の自分の気持ちと繋がっているんだ。

年をとっても明るい服を着てオシャレを楽しみたい。



おのころの家



〒656-0002
洲本市中川原町中川原 222-2
中川原ふれあいセンター内
TEL・FAX 0799-28-0995

ご依頼にお応えします 力をあわせて製品作り

おのころの家には団体から個人まで作業依頼があり、お応えしています。

ひようご聴障ネットからエプロンと帽子のセットの注文を受け、納品しました。

「紐の長さは調節できるようにして」という要望があり、お応えしました。

現在手話カフェで使用されており「かわいいね」と、とても評判がいいそうです。

また、洲本市社会福祉協議会より「アンケートに答えてくれた人にプレゼントする袋を作ってほしい」と依頼があり、200袋製作し、納品しました。

布地を裁つ人、ミシンをかける人、糸切をする人、袋入れをする人、みんなで手分けして仕上げました。



▲社会福祉協議会に納品した袋

さらに洲本市より新生児訪問の際にプレゼントしている「スタイ(赤ちゃんのよだれかけ)」の製作依頼も、今年度も納品させていただきましたことになりました。

おのころの家のなかまが一生懸命に作った製品が多くの方々のもとに届き、喜んでいただけるかと思うととてもうれしく思います。

また、「ロングスカートをチュニック※にリフォームしてほしい」という「おたがいさま中川原」からの依頼もあり、できあがった服をお渡しすると、依頼者の方にとっても喜んでいただきました。

出来るだけご注文に応じますので、興味をお持ちの方、まずはご連絡ください。

(担当:藤本)

※チュニック:丈が長め(腰から膝ぐらいまで)の上着

夏が過ぎ、新しい野菜作りに挑戦 おのころの家農業班日誌④

9月も中旬を過ぎると夏野菜も枯れ、収穫出来なくなった野菜の片付け、新たに秋冬野菜を植えました。

ふれあいセンター近くでお借りしている畑を耕し、蕪、ニンジン、ほうれん草、ブロッコリーとカリフラワーを植えました。

この秋冬に、しっかりと収穫出来るように挑戦です。

秋に収穫される物といえ、サツマイモ。おのころの畑に植えたサツマイモも収穫の時期になりました。今月中にみなさんと収穫をします。



▲枝豆の収穫作業の様子



▲畑を耕し秋冬野菜を植えました。右には収穫を待つサツマイモ

普段畑作業に來られない方も「サツマイモはふかして食べるとおいしい、芋掘りが楽しみ」と、収穫の日を楽しみにされています。(担当:神代)

おたがいさま中川原の 応援活動も増えていきます

主に男性の利用者の方が出てふれあいセンター周辺の清掃作業にも励んでくれています。おたがいさま中川原の依頼で中川原町内へ応援に出ることも増えてきました。

応援者に指名して下さる方も依頼者の方も身振り手振りや大きく口を動かして「一生懸命きれいにしてくる」「来てくれて助かる」など、感謝の言葉を伝えようとされます。

応援活動を通しておのころの家や障害者との交流や活動が広がることにつながっていきたく思っています。

中川原高齢者・障がい者 地域ふれあいセンターの催し物

10月26日(日)

10時~15時

洲本市中川原町中川原 222-2

中川原高齢者・障がい者
地域ふれあいセンター



指文字さがし
ゲーム

焼き立て石窯ピザ

10月26日(日)に開催される「ふくろうふれあい愛まつり」に合わせ、ふれあいセンターでも催しを行います。石窯で焼いたピザ、フリーマーケットにスーパーボールすくい、ヨーヨーつり、お菓子堀みなどのゲームや、バルーンアートに手話でのコミュニケーションを身近に感じていただける指文字さがしゲームなど、子ども達に楽しんでいただける催しをご用意しております。

続々・地域を語る

中川原むかし話

かるた口説き

No.3

北 岡 肇

市原は月に一度の 市でにぎわう

中川原村史編纂中に、市原の古老の方から「昔は毎月一度、市が立ち賑わったことから市原の地名となった」と言うお話を聞いたことから、いろはかるたの文言として書かしてもらったものです。村史には書かれていません。

また市原は「櫛原」と淡路草に書かれています。それは「謬傳」つまり、まちがった言いづたと書かれています。

それは、ともかくとして洲本市中川原町市原地域は先山の麓、大阪湾に面して海拔30〜50mの丘陵地で広さは「外周2里11丁（約10kmメートル）御高813石程」と文政13年（1831年）の分間絵図に書かれています。

同地域は昔の国道、本土から岩屋↓福良↓阿波への街道が通り洲本の城下町から西浦街道へ島を横断する道路とが交差して利便なところでした。

また当地には一国一宇、淡路島で一カ所の「市原の庚申さん」が祀られ有名です。（②でくわしく紹介いたします）

江戸時代の中頃から庚申（かのえさる）信仰、何事もお祈りすると「かのえさる」かなえてくれるということから2カ月に一度の割でこの日が回つてくると島内から参拝者が多く、境内は立錐の余地がなかったということでした。

庚申さんのお祭りは2カ月に一度ですが、2カ月に一度は間が長いので中の月にも開かれるようになり、月に一度の市になったと言うことです。

この日には、農業 工業 商業の人達が待ちにまったとばかりに莛を広げ、軒を立て、今どきで言う地産、地消の市が軒をつらね、物々交換や商いと賑わい お見あてを立てて大勢の人達が買い求めたということです。

さらに、一国一宇の庚申さん、市の立つ日には参詣者も多く一段とにぎわったそうです。

デイサービスセンター 桜ヶ丘

「来年もここで」とのお声も～独居老人食事会初開催～

9月5日(金)独居老人食事会をふれあいセンター内デイサービスで開催しました。

中川原町内で一人暮らしのお年寄りの方に来ていただき、デイサービスの通所者のみなさんと交流しました。

民生委員代表の曾根様のあいさつで、食事会が始まり、まずは地域の方に、「ふれあいセンター」がどのような場所なのか理解していただく為にセンターの説明・デイサービスの見学を行いました。

見学後、地域の方とデイサービスの通所者様と一緒に松花堂弁当を食へながら交流をしました。

食事をされた後で、デイサービスのの方に毎月1回美術を教えてくださる地域の前川先生に講師をして頂き「自分の花を作りましょう」という題目で、折り紙で花を製作しました。

みなさん会話を楽しまれながら花作りをされていました。

偶然隣同士に座った、デイサービスの通所者様と地域のお年寄りの方がお話をされている内に共通のお知り合いと親しかったということに気づかれ、お二人の会話にさらに花が咲きました。

最後のあいさつの前に、地域から参加されたの荒浜悦子様がつけてくださった歌を全員で合唱しました。

デイサービスでの交流会ということで地域の一人暮らしの方々、民生委員・協力委員の方々に協力頂きありがとうございました。

又、来年もデイサービスでこのような食事会が開催できればと思います。

(デイサービス：酒井)



▲荒浜さん(左)が中心となって合唱

いつもご支援ありがとうございます



9月3日(水)淡路ふくろうの郷地域交流会の皆様のご協力で、毎年恒例の案山子を立てることができました。「今年の案山子はええ顔しとる」など出来栄えを評価しながら立ててくださいました。



「かわいいのができました」
岸本久美様(84歳)

9月18日 作品紹介 手芸講座